

⑫ 公開特許公報(A)

平3-58174

⑤Int.Cl.⁵G 06 F 15/62
15/00
G 06 K 17/00

識別記号

4 6 0
3 3 0 F
V

庁内整理番号

9071-5B
7218-5B
6711-5B

⑬公開 平成3年(1991)3月13日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭発明の名称 窓口端末利用者の個人識別方式

⑰特 願 平1-195000

⑱出 願 平1(1989)7月26日

⑲発 明 者 杉 本 直 則 大阪府大阪市東区城見1丁目4番24号 関西日本電気ソフトウエア株式会社内

⑳出 願 人 関西日本電気ソフトウエア株式会社 大阪府大阪市東区城見1丁目4番24号

㉑代 理 人 弁理士 内 原 晋

明 細 書

発明の名称

窓口端末利用者の個人識別方式

特許請求の範囲

窓口端末利用者の利用者登録時に登録者本人の指紋を指紋読取装置にて読み取り、指紋情報をコード変換したものと、キーボード等より暗証番号、各種情報のコードデータを入力したものとを、集積回路付iDカードの記憶部に出力するiC付iDカード記憶手段と、

前記集積回路付iDカード利用時に窓口端末利用者の指紋を指紋読取装置にて読み取り、その読み取られた指紋情報をコード変換したものと、前記集積回路付iDカード上に記憶されているカード登録者の指紋コードをカードリーダにて読み取ったものとを照合する集積回路付iDカード指紋コード照合手段とを設けたことを特徴とする窓口端末利用者の個人識別方式。

発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、窓口端末利用者の個人識別方式に関するものである。

〔従来の技術〕

従来、窓口端末利用者の個人識別方式としては、周知のように、iDカード登録時にカードの磁気ストライプに暗証番号を記憶しておき、端末利用者が暗証番号をキーボードより入力し上記カード上の暗証番号と一致すれば端末利用者がiDカード登録者本人とみなすという方式がある。

〔発明が解決しようとする課題〕

上述した従来の窓口端末利用者の個人識別方式では、カード上の暗証番号の読取、又はカードの複製が行われた場合にカード登録者の情報が悪用される可能性があるという欠点がある。

〔課題を解決するための手段〕

本発明の窓口端末利用者の個人識別方式は、窓

口端末利用者の利用者登録時に登録者本人の指紋を指紋読取装置にて読み取り、指紋情報をコード変換したものと、キーボード等より暗証番号、各種情報のコードデータを入力したものとを、集積回路付iDカードの記憶部に出力するiC付iDカード記憶手段と、

前記集積回路付iDカード利用時に窓口端末利用者の指紋を指紋読取装置にて読み取り、その読み取られた指紋情報をコード変換したものと、前記集積回路付iDカード上に記憶されているカード登録者の指紋コードをカードリーダにて読み取ったものとを照合する集積回路付iDカード指紋コード照合手段とを設けたことを特徴とする、

〔実施例〕

次に本発明について、図面を参照して説明する。

第1図は本発明の一実施例の利用者登録時における概略図である。

第1図中、1は指紋読取装置、2は指紋読取部、3はコード変換部、4はキーボード、5は

19はコード入力部、20は暗証番号照合部をそれぞれ表す。

iC付iDカードを使つての窓口端末利用時、利用者は指紋読取装置9により指紋読取部10を通して指紋情報を読み取り、その指紋情報を個人識別できるあらかじめ決められた桁数にコード変換部3でコード変換を行う。

また、利用者はiC付iDカード12をカードリーダ13によりカード読取部14を通して入力する。そして、利用者は暗証番号をキーボード18よりコード入力部19を通して入力する。その後、コード変換部11にて変換された指紋コードと、カード読取部14より読み取られた指紋コードとを指紋コード照合部15にて照合し、照合結果判定16を行い、近似値でなければ使用不可状態となり(17)、近似値であればカード読取部14より読み取られた暗証番号とコード入力部19より入力された暗証番号とを暗証番号照合部20にて照合し、照合結果判定(21)を行い一致していなければ使用不可状態となり

コード入力部、6はカード出力部、7は集積回路(以下iCと記す)付iDカード、8は記憶部をそれぞれ表す。

窓口端末利用者登録時に、指紋読取装置1は指紋読取部2を通して利用者の指紋情報を読み取り、その指紋情報を個人識別可能な、あらかじめ決められた桁数にコード変換部3にてコード変換を行う。

また、利用者の暗証番号、口座番号等の登録情報をキーボード4よりコード入力部5を通して入力した後、コード変換部3にてコード変換された指紋コードと共にカード出力部6がiC付iDカード7内の記憶部8に登録する。

第2図は本実施例のiC付iDカード利用時の概略図である。

第2図中、9は指紋読取装置、10は指紋読取部、11はコード変換部、12はiC付iDカード、13はカードリーダ、14はカード読取部、15は指紋コード照合部、16は指紋コード照合部15による照合結果判定、18はキーボード、

(22)、一致していれば目的処理(23)が行われる。

〔発明の効果〕

以上説明したように本発明は、金融機関の窓口端末ATM等に代表されるように、iDカード一枚で個人の多種多様な情報サービスが受けられる今日においてiDカード利用者の個人識別方式として指紋コードをiCを利用したiC付iDカード上に登録しておき、iDカード利用者本人の指紋と照合することにより、iDカードの應用を防止することができるばかりでなく情報サービスシステムの信頼性が大幅に向上する効果がある。

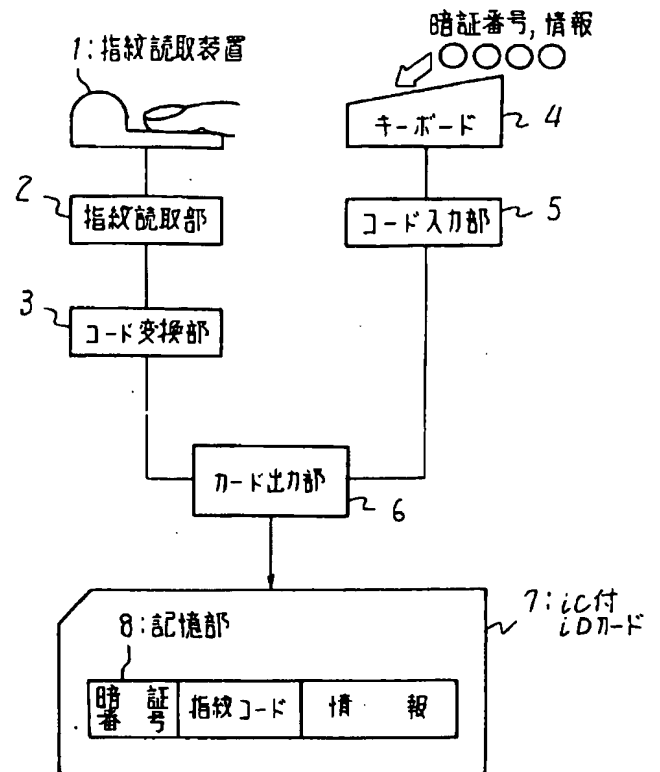
図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の利用者登録時の概略図、第2図は本実施例におけるiC付iDカード利用時の概略図である。

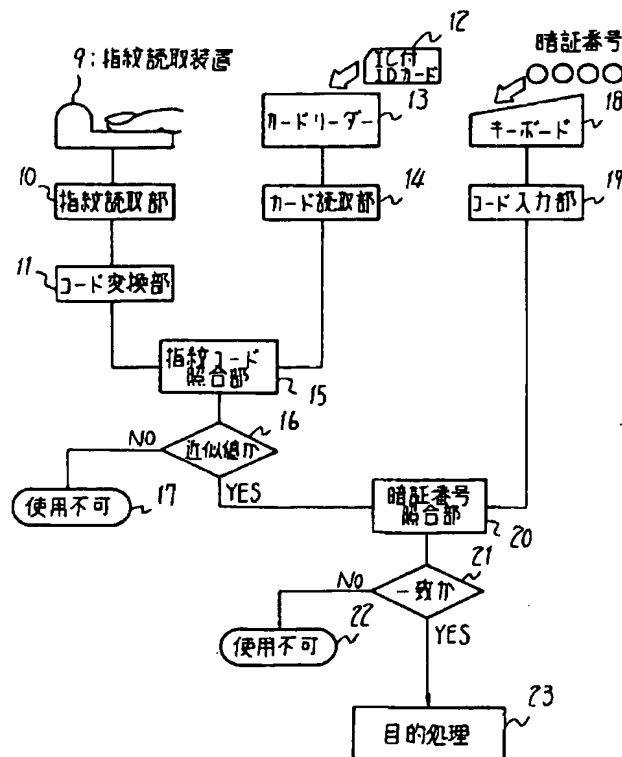
1、9…指紋読取装置、2、10…指紋読取部、3、11…コード変換部、4、18…キーボード、5、19…コード入力部、6…カード

出力部、7、12…iC付iDカード、8…記憶部、13…カードリーダー、14…カード読取部、15…指紋コード照合部、20…暗証番号照合部。

代理人 弁理士 内 原 晋



第 1 図



第 2 図